

大阪市教

「授業評価」討議資料 2012年9月26日

子ども・保護者
授業アンケート
A・B・C・D評価

父母との信頼関係を壊す 教員に非公開で授業改善にならない 校長が「授業力」評価でランクづけ、賃金反映

府「評価システム」改定を撤回せよ

大阪府教委は、「大阪府立学校条例」等の具体化として、9月5日各市町村教育委員会宛に「教職員の評価・育成システム」にかかわる授業アンケート等の実施について（通知）を发出しました。

その内容は、①「教職員の評価・育成システム」の改定を2013年度から実施する、②そのための試行を今年度中に行う、③「教員評価」に、能力評価として従来あった「学ぶ力の育

成」を「授業力」に変え、新たな評価要素として設定する、「授業力」評価は、まず「生徒」と「保護者」による授業評価として授業アンケート（裏面参照）を実施、これにもとづき総合的判断として「SS、S、A、B、C」で記入、その授業アンケート結果と校長が行う「授業観察」「発揮された能力（態度・行動）を加味し、「授業力」評価を決める、④全般にわたる「教職員の評価・育成システム」の改

定については、現在検討中としていきます。教職員が子どもや保護者の意見や要望を聞き、教育活動や授業の改善にむけて取り組むことは当然です。また、子どもの実態や保護者の意見や要望をもとに、双方向で話し合い、改善にむけて取り組むことは、日常的に行われていることです。

子ども・保護者を 教員の監視役に

「いじめ」の隠蔽や 学級崩壊の危険

子ども・保護者を教員の監視役に、今回は、今回府教委が示している「授業アンケート」は、形式的な4段階「評定」が子ども・保護者に押しつけられ、教員のランクづけだけが行われます。しかも、府教委のQ&Aでは、授業を見ていない保護者にも、「ご家庭でお話し合いの上」等、子どもの好き・嫌いや、うわさによって授業を評価する、さらに「アンケート」の提出をめぐり、子ども・保護者に、不当にも提出責任が押しつけられる危険性もあります。

「アンケート」用紙をみることで、校長がその結果を集約し、5段階でランクづけするとしています。これでは、具体的な授業改善にはつながりません。授業改善とは無縁のもので、教職員のランクづけだけがすすめられ、子ども・保護者と教職員に「対立関係」を持ち込むもので、学校教育を破壊する危険性を持っています。



いま求められるのは 保護者と教職員の協力と共同！

授業をした教員本人は、生徒や保護者が記入した

また、教育活動を授業だけに矮小化し、児童活動や運動会など子どもの自主的活動や子どもが主人公の学級行事、学級作りが軽視されかねません。そして、「授業評価」に追い詰められ、指導が大変な学年・学級を受け持つことを避けようとする傾向が強まったり、教職員相互の教えあいや共同が弱まってしまい、学級内の「いじめ」問題や指導上の困難が日常的に話し合われなくなる可能性も否定できません。



今、子どもが主人公の学校・園作りが求められています。保護者からも「子どもが機嫌よく学校に行つて、先生が機嫌よく教えてくれたら、それが一番」との声も寄せられています。監視や、対立をおおる「授業評価・アンケート」に反対し、今こそすべての教職員と保護者、地域が連携して、「いじめ、暴言、暴力」の無い、子どもの命と尊厳を大切にすることをすすめてみましょう。全教職員の反対署名を集めましょう。

全教職員から署名を！